

14. 言語文化研究院

(1) 言語文化研究院の研究目的と特徴	14-2
(2) 「研究の水準」の分析	14-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	14-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	14-6
【参考】データ分析集 指標一覧	14-7

(1) 言語文化研究院の研究目的と特徴

1. 研究目的

言語文化研究院の研究目的は、世界の多様な言語と文化と社会について実践的・理論的研究を推進し、その成果を通して日本及び国際社会の発展に寄与することである。本研究院の構成とミッションは以下のとおり。

部門	講座	ミッション
言語環境学部門	言語教育学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の観点から言語および言語環境を研究 ・諸言語を対象に、言語の理解と運用能力を開発するための理論と方法、言語教育に関連する諸問題を総合的に研究 ・外国語教育法の改善を目的にカリキュラム・教材を研究開発
	言語情報学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・言語情報と情報メディアを総合的に研究 ・国際化社会での人間コミュニケーションを分析 ・現代のメディア技術の急速な発展に伴うコミュニケーション活動の変容の諸相を重視 ・言語が社会・文化の構築に果たす役割を重視 ・複数言語の接触が惹起する諸問題を研究
国際文化共生学部門	国際共生学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・世界における国際協力の諸側面を研究 ・現在の国際協力の変動と諸問題を分析・検討、国際協力のあるべき姿と理論、方法論を研究 ・教育開発、環境、ジェンダー等の分野も考察 ・「経済協力」「技術協力」より広く、言語的・文化的側面から新たな国際協力研究を構築
	国際文化学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化を総合的に研究 ・文化の動態と多元性、文化間の接触を重視 ・異なる地域文化の諸相を総合的・学際的に研究 ・従来の地域研究の方法論を批判的に検討、地域文化研究の総合的な理論と方法論を追究 ・多文化共生の可能性とそのあり方を追求

(2017年度までは特定研究教育講座として国際教育講座が存在した)

2. 特徴

本研究院の行う研究は「1. 研究目的」で述べたように広く言語文化に関わりを持ち、多様性のあるもので、その分野での学界に貢献する使命を持つものだが、大学院教育については、地球社会統合科学府、人間環境学府、経済学府を、学部教育については共創学部を、基幹教育については言語文化科目を担当し、研究成果を直接様々な教育現場に活かすことができることに特徴がある。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 7314-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 7314-i1-2）
- ・ 指標番号 11：本務教員あたりの研究員数（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017 年度末に外国籍の特別プロジェクト教員 5 名による特定教育研究講座としての国際教育講座が配置期間満了で廃止となり、配置にあたっての条件であった所属教員の原則承継教員化の方針に沿い、2018 年度からこのうち 4 名は承継教員として、1 名は別種の特別プロジェクト教員として、それぞれの研究分野にふさわしい他の講座に配置換えとなった。その結果、外国人教員の比率が増え、より多様な視点で言語文化に関する研究を遂行することができるようになった。

[1.1]

<必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 7314-i2-1）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 7314-i2-2、7314-i2-3、7314-i2-4）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）（別添資料 7314-i2-5）※法人独自資料添付

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 若手教員には、研究に可能な限りの時間を割くことができるようにするため、大学、地区、部局の委員会委員や WG 委員等の公式役職類をできるだけ少なくするよう配慮している。2019 年度現在、研究院長が把握している公式役職類の一人当たりの数は、休職者を除いた承継教員の場合、助教で 1.5、准教授で 2.9、教授で 4.1 となっている。（別添資料 7314-i2-6） [2.2]
- 研究院内に研究戦略委員会があり、学術研究の将来戦略、研究会等の企画、科学研究費補助金申請の支援、叢書・紀要類の編集・発行等に関する活動を行っている。 [2.0]

<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（人文科学系）（別添資料 7314-i3-1）
- ・ 指標番号 41：本務教員あたりの特許出願数（データ分析集）
- ・ 指標番号 42：本務教員あたりの特許取得数（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 25～40、43～46（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 科研費については、本務教員 44 名（2019 年度）のところ、注目すべきこととして、1 年平均基盤 A 分担者が約 2 件、基盤 B 代表者が約 4 件、若手研究代表者が約 7 件ある。（別添資料 7314-i4-1）
- 科研費以外にも積極的に応募し、研究所や財団からの外部資金（別添資料 7314-i4-2）や各種学内競争資金（別添資料 7314-i4-3）も獲得している。
- 研究院内の研究戦略委員会が科研費申請への支援を実施している。（（再掲）別添資料 7314-i2-4）

<選択記載項目C 研究成果の発信／研究資料等の共同利用>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016 年度に研究資料として Higuchi GM Corpus（ゲーテとトーマス・マンのテキスト・データベース）を部局 HP に移設して改めて公開した（現行の Higuchi GM Corpus トップページ：別添資料 7314-iC-1）。以来 2020 年 3 月 10 日現在までアクセス数 9,109、検索数は 85,971 回に及び、ドイツからのアクセスが多い。これは元々、1983 年から公開された、各作家の全著作等をキーボード入力 of 気の遠くなるような 20 年以上の作業によるもので、1983 年の公開当時から世界で重宝された。[C.1]

<選択記載項目D 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 部局や関係プログラム主共催のシンポジウム、講演会等が2016年度3件、2017年度4件、2018年度9件と増加している。(別添資料7314-iD-1) [D.1]
- 特に現代中国の著名作家冰心の自筆完全原稿発見に始まる国際シンポジウムがマスコミでも注目された。(別添資料7314-iD-2) [D.1]
- 本研究院の特徴として、ディベート関係の大会、研究集会、シンポジウム等が毎年多数開催されている。[D.1]
- 2017年度と2019年度に九州大学公開講座のひとつを研究院主催として行った。2017年度は「異文化理解へのアプローチ」をテーマに16名の参加者を得て、文学・メディア研究の成果を還元した。2019年度は「ことば研究における多面的アプローチ」をテーマに22名の参加者を得て、語学研究の成果を還元した。(別添資料7314-iD-3、7314-iD-4) [D.1]
- 研究院内委員会の研究戦略委員会が、研究院叢書、研究院学術誌『言語文化論究』の編集・発行を行っている。[D.0]

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

言語文化研究院の研究目的は、世界の多様な言語と文化と社会について実践的・理論的研究を推進し、その成果を通して日本及び国際社会の発展に寄与することである。したがって、言語文化研究院が特に重視するのは、世界の言語と文化と社会に関する研究成果(原著論文、著書)である。言語文化研究院はまた、グローバル化が急速に進展する時代における研究国際化の趨勢に鑑み、国際的な場での研究発表を推奨している。以上の点を踏まえて、部局を代表する「研究業績」の選定基準を、次のようにした。

- ①評価の高い国際学術誌・論文集に掲載された論考
- ②国内誌掲載論文については、当該分野において最高評価の学術誌に掲載された論考
- ③著書については、関係学会誌あるいは書評紙等において書評対象となり、加えて当該分野の研究者によって高い評価を得ている著作

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究業績説明書にある7件から、SSのもの2件、および学術的意義と社会、経済、文化的意義の双方で評価されているもの2件について特記する。
業績番号1：魯迅の創作が実は日本文学の模倣に支えられているという指摘により内外から高い評価を得た。(SS)
業績番号2：原子力時代を、それを写す芸術作品の見地から捉える研究で、MIT出版局からの単著に結実して注目された。(S+S)
業績番号4：現代中国の著名作家冰心の自筆完全原稿発見に始まる研究成果がプレスリリース・報道された。(S+S) (別添資料 7314-ii1-1)
業績番号5：関連性理論から日本語の談話標識等を扱った研究で、Journal of Pragmatics, Pragmatics & Cognition という著名国際学術誌に採択された。(SS)
- 民間との共同研究としては、2017-2018年度の株式会社シーマン人工知能研究所と、会話型AIのための日本語新口語文法体系に関する研究を実施した。
(別添資料 7314-ii1-2)
- 教員の受賞として、第3回中青年漢日対比言語学優秀成果賞・著作賞、第18回徳川宗賢賞(萌芽賞)、2019年度英語コーパス学会奨励賞、NLP若手の会(YANS)第14回シンポジウムスポンサー賞(サイバー賞)があった。
(別添資料 7314-ii1-3)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
2. 教職員データ	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数	
46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数	